

公的年金の積立金を運用する「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)」は2月27日、2014年10～12月期の年金積立金の運用状況を発表した。

直近の7～9月期と比べ、収益率は5.16%、収益額は6兆6,233億円となった。

運用状況の発表は、昨年10月末に株式投資への比率を引き上げる運用目安（ポートフォリオ）を見直して以来、初めてだ。

国内外の株式や外債が上昇したため、収益を大きく押し上げた。

公的年金積立金の自主運営が始まった2001年度以降、収益率で4番目、収益額では2番目の実績だった。累積の収益額は47兆9,093億円。

GPIFは運用目安の見直しを受け、2014年末までに国債の比率を43.13%に下げ、国内株式を19.8%に上げるなどした。

(2015/02/28 読売新聞から)